

85. RI 検査報告の自動化について

東京大学分院 放射線科

安河内 浩 町田喜久雄 大島 統男

菅原 正 工村 房二

RI 診療の件数増加について、その報告量は増加し、その処理や解析に難があることは周知の通りである。

更に件数の多いX線診断については米国では項目別分類 (IDR) が多くの施設で使われ、又報告書の自動化についても多くの報告があり、更にはコンピューター化された報告システムが市販されている。

RI 診療については我国でも項目別分類の試みがなされているが、未だ一般化はされていない。我々は先にX線診断の自動報告システムをキーセットコーダーを利用して開発したので、これをRI診療に応用することを試み報告する。

キーセットコーダーは 64ブック×5ページ×120≒40 KW 記入可能であり、各ページを検査部位名30, 所見名60, 診断名20, その他10に別け、文章は5通り用意した。

これに10キーが加えられるので、現在報告されているほとんどの所見がカバーされている。